

ウイングヒルズ白鳥リゾート安全報告書

2025 年度

(2024 年 7 月 1 日～2025 年 6 月 30 日)



ウイングゴンドラリフト
ウイング第一クワッドリフト
ウイング第二クワッドリフト
ウイング第一ペアリフト

株式会社 アルペン

1. 利用者の皆様へ

当社の索道事業に対して、日頃からご利用とご理解を賜り、誠にありがとうございます。

本報告書は、鉄道事業法に基づき、安全輸送の取り組みと実態について、自ら振り返るとともに広くご理解いただくために本報告書を公表するものであります。

株式会社 アルペン

代表取締役社長 水野 敦之

2. 基本方針と安全目標

(1)基本方針

当社の経営理念の第一は、安全確保です。「安全基本方針」を次のように掲げ、全員に周知、徹底しております。

- ① 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- ② 輸送の安全に関する法令及び関連する規程(本規程を含む。以下、「法令等」という。)をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- ③ 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- ④ 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- ⑤ 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- ⑥ 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- ⑦ 常に問題意識を持ち、必要な変革に取り組むよう努めること。

(2)安全目標

索道運転事故件数0件を目標とします。

引き続き職員一致団結して目標に向けて安全輸送に取り組む所存です。

3. 事故等の発生状況とその再発防止処理

(1) 索道運転事故(索道人身傷害事故)

令和 6 年度、人身傷害事故の発生はありませんでした。

(2) 災害(地震・風害・豪雪など)

令和 6 年度、夏季営業中、雷雲接近の影響によりゴンドラ・クワッドリフトの一時運休が数日あり、台風接近及び豪雨により全リフトの運休がありました。冬期営業中は強風による全リフトの停止はありませんでした。ゴンドラリフトは風の状況により、数日の運休、数時間運休があり、事故未然防止のため、利用者の皆様には、大変ご迷惑をお掛けしましたが、営業状況等の最新情報をホームページ等で公表しておりますので、皆様のご理解をお願いします。

(3) インシデント(事故の兆候)

令和 6 年度インシデントの発生はありませんでした。

(4) 行政指導

令和 7 年 10 月、中部運輸局より 5 年間運転無事故表彰を受けました。

4. 輸送の安全確保のための取り組み

(1) 人材教育

1、安全に関わる、PDCAサイクルによる業務改善活動の実施

令和 7 年度も引続き、運転事故 0 件を目標に年間の活動計画を定め、索道スローガンとして「事故故障 0 件維持と、収益構造改革」を掲げ、定期点検結果報告、事故・トラブルの分析、再発防止策等について議論し、安全性の向上に努めています。

2、令和 7 年度、各種索道研修会等の参加

- ①美濃地区索道協会、技術講習会……………技術管理者・管理員 3 名参加。
- ②美濃地区索道協会、雪上車両講習会……………開催見送り
- ③中部運輸局主催、技術管理者研修会……………技術管理者 2 名参加。

3、社内規程の見直しと社内研修の実施

- ①全リフト安全標語、朝礼時の唱和訓練実施の継続……………索道従業員全員

リフト安全標語「乗客から目を離しません」

「減速・停止基準を守ります」

「〇〇だろう業務はしません」

「感謝・思いやり・気配りを忘れず積極的に声掛けします」

- ②スノーモービル安全運転規程による社内講習会実施の継続……………スノーモービル使用者全員

平成 20 年度より 15 年間継続して講習会を実施し、人身事故等の発生は 0 件を維持。

- ③平成 24 年度より始まった、全部署共通で、「ヒヤリ・ハット報告ルール」、現場からの意見やお客様からの情報を集約し、組織的な改善活動を継続しております。

(2) 緊急時対応訓練

令和7年10月、全従業員へ消防署による、救命講習(心肺蘇生・AED 取扱)を実施しました。

令和7年度、冬期シーズン開始前に、索道スタッフにより予備原動機取り扱い訓練、全スタッフを交えた降下救助器具による講習会・訓練を実施しました。

各訓練後の反省会から、次回訓練で改善事項を検証し、安全確保の確認・作業効率化を図っています。

令和7年10月、救命講習(心肺蘇生・AED 取扱) 	令和7年10月、第一クワッド降下救助訓練 
令和7年10月、第一クワッド降下救助訓練 	令和7年10月、第一クワッド降下救助訓練 
令和7年11月、ゴンドラ救助訓練 	令和7年11月、ゴンドラ救助器具講習会 

(3)安全のための投資等

安全の維持・向上のため、下記表の通り、索道施設の整備・修繕工事を実施しました。

リフト / 年度	令和6年度	令和7年度
ゴンドラリフト	握索装置3年検査(1/3台数:30台) 支柱索輪・ブッシュ交換(一部)	握索装置6年検査(1/3台数:30台) 支柱索輪・ブッシュ交換(一部) 山麓駅舎屋根葺き替え工事 (雪害対応)
第一クワッドリフト	握索装置2年検査(1/2台数:42台) 支柱索輪・ブッシュ交換(一部) 場内調整整備	握索装置4年検査(1/2台数:41台) 減速機・原動軸取付工事 主原動機オーバーホール 山頂押送チェーン爪交換
第二クワッドリフト	握索装置1年検査(全数:107台)	握索装置6年検査(全数:107台)
第一ペアリフト		運転室建て替え工事(雪害対応)

(4)今後の計画目標

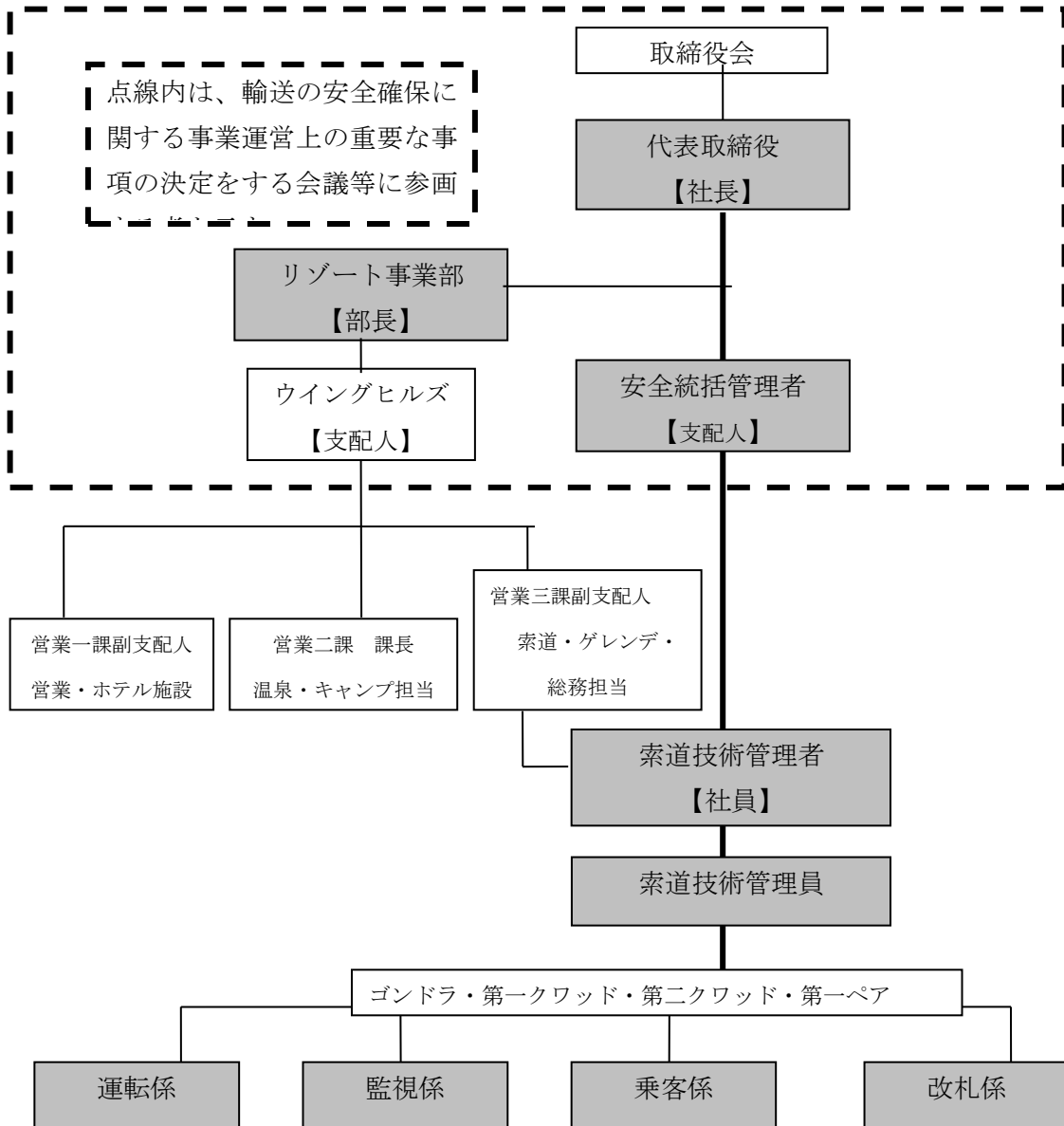
索道運転事故0件を目標に、令和7年度索道スローガンとして「事故・故障0件維持と、収益改善」を定め、安全の維持、向上を目的として下記計画実施を目標とします。

- ① リフト乗降時の「お・も・て・な・し」(接客業務の抜本的な改善)の継続
- ② 中長期での年度別の保守及び改修計画立案。
- ③ ヒヤリハット報告の促進と安全管理体制の見直しと改善の実施。
- ④ 内制化に向けた人材育成教育の継続と新規社員登用計画。
- ⑤ 運輸マネジメント「内部監査体制、自己チェックリストの活用と仕組みの構築」

各種講習会等に積極的に参加し、職員の安全に対するレベルアップを図ります。又、各現場から、ヒヤリ・ハット報告制度・リフト別安全標語の朝礼時唱和を継続実施し、日々の業務及び、業務改善活動に反映させ、安全性の向上に努めていきます。

5、安全管理体制

●令和7年度、安全の確保に関する体制、索道施設の維持管理・運行管理に係わる体制



社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	索道事業の輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行の管理、索道施設の保守の管理、その他の技術上の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行う業務を補助する。
部長	輸送の安全の確保に必要な設備投資、人事、財務に関する事項を統括する。

6、リフト利用者の皆様の連携とお願い

(1)お客様の声をかたちにし、期待に応えられるよう努めてまいります。お寄せいただいた声を受け止めて、より信頼される「安全・安心の提供」が出来るよう役立てます。

(2)リフト利用時の注意事項

お客様の行動は、リフトご利用のお客様全員の安全に関わっています。リフトご利用には、責任と義務が伴いますので、次のことを守ってください。

(乗車時)

1. リフト乗り降りに不安のあるお客様は、係員まで申し出てください。
2. 乗車位置では滑走具を正しく前に向けてお待ちください。
3. ストック等が隣のお客様に迷惑にならないようご注意ください。
4. 乗り損なったら、すぐにリフトから離れてください。
5. リュック、衣類等のひもにご注意ください。

(乗車中)

1. セーフティーバーを下ろし、深く腰をかけてください。
2. イスから飛び降りること、イスを揺らすことをしないでください。
3. 身の回り品や物品の落下にご注意ください。
4. 空き缶、たばこの吸い殻、その他の物品を投げ捨てないでください。

(降車時)

1. 降り場が近づいたらセーフティーバーを上げ、降りる準備をし、降りた後はまっすぐ進み、次のお客様の迷惑にならないようご注意ください。
2. 降りられなかったら、イスにそのまま座って係員まで申し出てください。

(その他)

係員の指示に従ってください。

7、ご連絡先

当社の安全への取り組みに対する、ご意見等ございましたら、下記連絡先へお寄せ下さい。

〒501-5231

岐阜県郡上市白鳥町石徹白峠山

株式会社アルペン（ウイングヒルズ白鳥リゾート）

安全統括管理者又は、索道技術管理者宛

TEL0575-86-3518 FAX0575-86-3527

E-mail info@winghills.net